

鉄道愛好家よりひとこと



本全国の鉄道ファンの人数は一説には約 200 万人といわれています。一口に鉄道ファンと言ってもいろいろなタイプがあり、列車に乗るのが好きな「乗り鉄」、鉄道と沿線の風景の写真を撮るのが好きな「撮り鉄」、列車の走行音や車内放送を楽しむ「音鉄」などさまざまです。では、あなたはと聞かれれば、「時刻表鉄」と「乗り鉄」の混合型と答えることにしています。

「時刻表鉄」とは、全国の鉄道の時刻が掲載されている月刊誌である時刻表を使って机上旅行を楽しむ人達です。机上旅行といっても、その気になればすぐに実現できそうな日帰り旅行から、(鉄道が他島から通じていない沖縄を除いた) 46 の都道府県所在地全てを最短で回る旅程といったすぐには答えが出ないものまであって、楽しみは尽きません。旅行に行った気分を味わう楽しみとともに、詰将棋やパズルを解く楽しみに似たところもあります。

このような素地があるので、出張の計画はアプリなどには頼らず今でも時刻表を使います。行き先が東京や大阪だとあまり張り合いがないのですが、例えば、弘前とか甲府に行くことになると、嬉々として時間をかけて旅程を検討します。出張が苦にならないのが「鉄」の効用の一つかもしれません。

リアルタイムで購入した手元にある最も古い時刻表は 1976 年 5 月号の「国鉄監修 交通公社の時刻表」ですので、今年で丁度 50 年、半世紀も「時刻表鉄」でいるのかと思うとわれながら呆れます。当時の時刻表には今では廃止された鉄道路線や列車の時刻が掲載されており、時空を超えた机上旅行を楽しむことができ飽きることがありません。過去の時刻表は、大正 14 年(1925 年) 4 月の創刊号や鉄道史上重要な号について復刻され現在も入手することができますので、鉄道ファンに限らず、地理、歴史好きの方には一読をおすすめします。

「乗り鉄」としては、レールの上を走っていればジャンルは問わないのですが、特に好きなのは、道路上に敷かれた線路の上を走る路面電車です。普通の電車より小ぶりなところ、ゆっくり走るところがお気に入りです。一日乗車券を片手に電車に乗って、窓から景色を眺め、面白そうな場所で降りて街をぶらつくことを無上の楽しみとしています。

かつては、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸の旧六大都市をはじめとして、日本全国の主要な都市の通りを網の目のように走っていた路面電車ですが、昭和の高度成長期に交通渋滞の元凶とされて廃止がすすみました。それでも、北は札幌から南は鹿児島まで約 20 都市で現在も運行されています。最近はウォーカブルな都市を実現するための公共交通手段として路面電車が見直されていて、宇都宮、富山、札幌、広島で路線の新設や延長が実現し、さらにいくつかの都市で整備が計画されています。全ての都市の路面電車の全ての路線に乗ることを目標としていて、現在約 8 割まで達成したところですが、新たな路線の開業もあって、路面電車の「乗り鉄」の楽しみはまだまだ続きそうです。

さて、この原稿も脱稿の目途がたちましたので、これから時刻表での机上旅行に出かけることにします。行き先は、金木、只見、飯田、郡上八幡、大洲、秋月、飫肥……。どこにしましょうか。

西野 善一

金沢医科大学 / JACR 理事長

